

# 一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員

## Q 定住と6次産業の二兎を追え

京都府綾部市ではU・イターンを呼び込むため都市住民との交流力を入れ、体験事業を通じて、土地柄や人の良さを見たり、感じてもらうことで定住につなげていた。本町でも取り組まれているが、事業にまで発展していない。交流・体験事業には移住を促す効果、農業体験や民泊を事業化することによる経済効果が期待できる。定住対策と6次産業化の二兎を追う考えはないか。



新設のリースハウス(下赤名)

## A 有効な事業を展開したい

町長 山崎英樹

本町は、平成26年度から、ふるさと島根定住財団の「しまね暮らし体験プログラム」を活用し、随時募集型の「飯南町仕事や住居の体験プログラム」を実施している。受入農家は、わずかではあるが収入になっている。観光協会も、農業などの産業体験、民泊などを含めた旅行商品売り出していくことが求められている。これは経済効果を目的としているが、移住に繋げることが大切だ。町民、定住支援センター、観光協会、産業振興課などがしっかりと連携して、有効な事業を展開したい。

## Q TPPに負けない施設野菜生産の拡大を

TPPが合意に至ったが、本町の農産物が影響を受けることは避けなければならない。振興作物のメロン、トマト、パプリカなどは影響を受けにくい利点を持っている。これを生かし、さらに振興に努め、農業で生活のできる農家を育成しなければならぬ。

そのためにはリースハウスの事業の積極的拡大が急がれる。作物は、共同選果により市場評価を高め、選果落ちは加工商品化することにより、新たな雇用が生まれ、6次産業化が進むと考えるがどうか。

## A 全力で取り組む

町長 山崎英樹

平成28年度から5年間の飯南町農業振興計画を策定した。U・イターンの者の就農促進と担い手の確保・安全安心な農産物生産・高原野菜・果樹・特産品の推進と6次産業化・園芸ハウスの周年活用を掲げ、園芸振興を進める。来年度予算の中で支援策を組み立てたい。「笑顔で輝く農業を副題としており、関係機関とともに全力で取り組む。



年末のもちつき(飯南町農産加工施設: 赤名)

# 一般質問

12月定例会



高橋 英次 議員

## Q 来島診療所の医療体制を問う

来島診療所には、常勤医師1名が配置され、医療の提供や各福祉施設との連携により、飯南病院を核とした地域包括医療・ケアが進められているが、今年度末で、現在の常勤医師が退任されると聞いている。常勤医師が居ること、は、町民の健康管理や各福祉施設の安定的な運営、さらには、福祉サービス利用者の早期治療にも繋がっている。医療体制の継続的維持と充実、介護の安定的供給は喫緊の課題であり、地域医療の核となる飯南病院、来島診療所を、町民、行政、議会が一体となつて守っていかねばならないと考えるがどうか。

## A 医療体制継続に取り組む

町長 山崎英樹

本町では、「生きがい村構想」をもとに、飯南病院を核として、来島診療所、各福祉施設と連携し、地域包括医療・ケアの取り組みを進めている。来島診療所の常勤医師には、本年の7月で2年の任期が到来したが、平成28年3月まで延長してもらっている。飯南病院長の人脈、島根県の支援を頂き、具体的に交渉している医師がいる。住民の安心な暮らしを守り、地域医療の継続のために招へいに向けて全力で取り組む。

## Q 選挙学習にどう取り組む

国会に於いて、選挙権年齢を20歳から18歳に引き下げる改正公職選挙法が全会一致で可決成立した。それに伴い、町内の小中学校に於いても主権者としての自覚を育み、選挙の仕組みを正しく理解するという、基本的な政治学習が必要になると思うが、義務教育9年間に於いて、どのような取り組みを考えているのか問う。

## A 学習指導要領に基づいて

教育長 安部 亘

小中学生のうちから、政治の仕組みや選挙の重要性を学習することは、社会人として必要とされる基本的な資質を養う意味が必要だ。小中学校では6年生の社会の時間に、中学校では3年生の公民の時間に、社会参画の態度を身につける事や、選挙の意義を学習するように定められている。これを踏まえて、より適切な指導が行われるように各学校と連携していきたい。



赤名小学校